

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」
「学んだこと」「行動したこと」
を皆様にお伝える紙上ブログです。



内田直之オフィシャルサイトが新しくなりました!
インターネットやソーシャルネットワークを使って、さらに情報発信を充実させていきたいと思ひます。ぜひ新しいホームページにアクセスして下さい!

uchida
naoyuki
.com



Think

Think
Sense
Study
Action

内田直之が考えたこと



東京を持続可能な エコ・コンパクトシティへ!

世界の都市総合力ランキングとは

先ごろ、「世界の都市総合力ランキング2012」が発表されました。これは、地球規模で展開される都市間競争下において、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける力こそが「都市の総合力」であるとの観点に立ち、世界の主要40都市を選定し、森記念財団都市戦略研究所が独自の調査を行い、評価・ランク付けしたものです。

総合ランキングトップ4の都市は、1位ロンドン、2位ニューヨーク、3位パリ、4位東京となっています。これまでトップだったニューヨークに代わり、ロンドンが1位へ躍進する結果となりました。これはニューヨークの総合力が減退したのではなく、ロンドンの成長が著しかったため、両者の順位が逆転したものでした。2012年オリンピック開催に向けての事前活動が評価に表れたと分析されています。東日本大震災の影響がありながらも、4位を維持した東京は、経済分野でトップを維持し、環境分野でも6位からトップへ上昇しています。経済、環境の双方で上位となっている都市は東京だけであり、大きな強みとなっています。全体的にバランスが取れている一方、弱みとしては、文化・交流、交通・アクセス分野が挙げられています。

グローバル化の進展により国家の力は、そのまま、その中心となる大都市の持つ力の優劣で決まる時代に突入しています。成長著しい東アジアの大都市との都市間競争が激化するなか、これからの東京には、如何に人々を惹きつけ、居住者にとって、また海外企業、旅行者にとっても魅力ある都市となれるかが求められています。

老朽化した都市インフラと
切迫する首都直下型地震

首都東京の都市の骨格を形成している大動脈である首都高速は、老朽化の進展や都市環境への影響、緊急輸送道路としての耐震対策など、多くの課題を抱えています。総延長約300kmのうち、経過年数40年以上の構造物が約3割、30年以上が約5割となっています。建設から40年以上経過し老朽化が著しい都心環状線など47kmで、大規模更

新・修繕などの老朽化対策に最大9100億円必要と試算されています。首都高速同様、高度経済成長期に一齐に建設されたオフィスビルや橋梁など多くの社会資本ストックも、対応年数を超え更新の時期を迎えることとなります。

一方、切迫する首都直下型地震では、最も被害が大きい東京湾北部地震の場合、建物倒壊が約12万棟、火災焼失が約19万棟と予想されています。政治、経済、情報が一極集中する首都圏が壊滅的なダメージを受けた場合、それは国家存亡の危機ともなりえます。高度防災都市を実現する為には、緊急道路沿道建築物、保育所、幼稚園、小中学校、病院、社会福祉施設などの耐震化を100%実現することや、木造住宅密集地域において耐震化、不燃化を推進し、延焼を防ぐ都市計画道路の整備など、防災まちづくり対策が急務となります。

持続可能な「エコ・コンパクトシティ」へ

人口減少時代を迎え、高齢化問題、環境問題、住民の価値観の多様化、ライフスタイルの変化など、都市を取り巻く環境は大きく変化しています。国土交通省は、「一定程度集まって住み、そこに必要な都市機能と公共サービスを集中させ、良好な住環境や交流空間を効率的に実現する集約型都市構造を持つコンパクトシティを目指すべきである」とした「エコ・コンパクトシティ」の実現を提唱しました。

「持続可能なエコ・コンパクトシティ」では、温室効果ガスの削減や、資源の有効利用、

生物多様性の保全など、自然との共生が重要です。また、持続可能とは、環境共生だけではなく、社会、経済、伝統、文化など多様な側面においても、豊かさや活力を維持できることが重要です。例えば、都心部では高層化・高密度化により、空地を創造し緑や公園を創ることや、首都高速都心環状線の高架橋の撤去により、親水性の高い水辺を復活する事が可能です。大手町、丸の内に勤める外資系ビジネスマンが生活できるような機能を整備すれば、徒歩圏内である神田地区は世界トップクラスの良質な居住エリアとなるでしょう。



激化する国際都市間競争や地球環境問題への対応、災害対策や都市インフラの更新、行政コストの効率化など、東京は多くの課題への対策を必要としています。最も大切なことは、地域のグランドデザインをどのように描くかだと思います。これまでの行政主導ではなく、地域住民が主体となり、町会やNPO、大学、企業など民間の担い手が協働できる体制が必要となります。都心に緑や水辺を再構築し、物質的豊かさより心の豊かさを大切にしたい、ひとが主人公の「持続可能なエコ・コンパクトシティ」を、千代田区は先導して創って行くべきであると考えています。

Sense

世界の街歩き

チェンマイ
(タイ王国)

人口27万人
面積152km²
立憲君主制

初めてチェンマイを訪れたのは2001年、赴任先のバンコクからバスで10時間位だったと思います。ゆっくりと時が流れる美しい街に魅せられ、それから幾度となく訪れました。「北方のバラ」と称され、色白のチェンマイ美人が有名なこの古都は、かつてラ

ンナータイ王国の首都として栄えました。お堀に囲まれた旧市街には城壁や城門が残り、市内には300を超える寺院が点在し、タイ北部独自の文化・伝統にふれる事ができます。市内の移動には、トゥクトゥク(オート三輪)やソンテウ(小型トラック)が、庶民の日常的な交通手段として利用されています。ソンテウならひとり20B~30B(60円~90円)位なので本当に安価で便利な乗り物です。また、チェンマイで最近特に有名なのが、コムローイ(熱気球)です。大晦日に、数千個ものコムローイがチェンマイ

の夜空をゆっくりと飛んでいく様子は、本当に幻想的で感動的です。独自の文化・伝統に誇りを持ち、気さくで心優しい住民と、日本にどこか似ているような懐かしさに引かれ、これからも、美しい古都チェンマイを訪問したいと思っています。



恋人らしき若い二人が
願いを込めてコムローイ
を飛ばしていました。



2012.10.27 ベルサール神田

区政報告会2012を開催しました!

今回も沢山の皆様にお越し頂き、本当にありがとうございました。来賓の中川雅治参議院議員、丸川珠代参議院議員、内田茂都連幹事長からのご講演に続き、私からは活動状況、千代田区の財政状況、重点課題「首都直下型地震対策」「幼児期教育」について、ご報告させて頂きました。私の政治活動の基本であるタウンミーティングと区政報告会を、今後とも続けて参ります。皆さま、是非遊びに来て下さい!

平成24年 第4回区議会定例会にて、一般質問を行いました。

1.2020年の東京計画と街づくりについて ●老朽化した首都高速道路の再生

【問題の背景】 中央環状線・外環・圏央道のいわゆる3環状道路は、2013年度末で48%の整備率にとどまっています。一方、首都高速の大きな課題は老朽化問題です。総延長約300キロのうち経過年数30年以上の構造物は約5割であり、特に千代田区内にある延長10キロは、ほぼ全てが経過年数40年を超えており、大規模な更新が迫っています。首都直下型地震に備える上でも老朽化した首都高速の再生は重要課題となっています。昨年「首都高速の再生に関する有識者会議」（国土交通省）は提言書にて、老朽化対策が喫緊の課題とし、都心環状線は高架橋を撤去し地下化などを含めた再生を目指すとししました。しかし、提言書にある首都高速の地下化には大きな課題があります。都心環状線及び関連する環状3号線内側の首都高速38キロの建設費は約3兆8,000億円と試算されていますが、整備に必要な空間もなく大規模更新は極めて困難と思われます。一方、同区域におきまして、首都高速撤去と水辺環境の復活整備に関する費用は約3,500億円と試算されています。中央環状線が完成すれば、都心3区を通過するだけの車61%が排除できます。

私は、それを契機に都心環状線と環状3号線内側の首都高速は廃止し、あわせて都心に水辺を再構築し、人が主人公の持続可能なエコ・コンパクトシティを創るべきと考えます。

【質問】

中央環状線の完成を受けて、千代田区内の首都高速の撤去を提案します。また、国土交通省や首都高速道路(株)からの情報収集や、中央区・港区との協働も必要では？

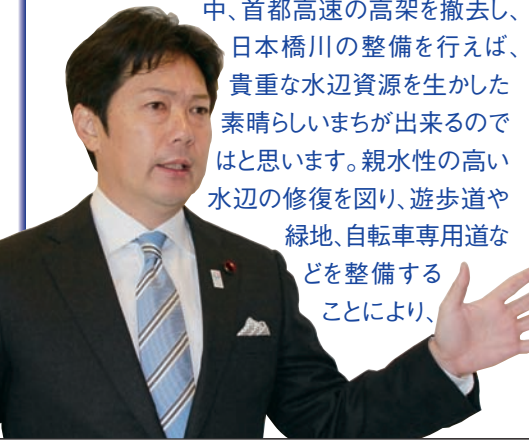
【区（執行機関）の答弁】

ご指摘のとおり、景観や水辺を大切にするという社会の流れそのものは同感である。首都高速環状線はかなり老朽化をしているが、地下化に3兆数千億という財源はひねり出せない。今の日本の税収等を見ると、都心部にこのお金を投入すれば地方の道路行政は全部ストップすると考えると、将来的には内田議員の指摘する方向になるだろうと思う。その場合に都心部のまちの姿、又は交通需要、その予測が非常に難しい。従って、国土交通省や首都高から様々な情報をとって行きたい。しかし、これらは需要が非常に多い数値が出てくる可能性があるのも、それらを十分に踏まえながら、実証的、科学的に確認ができた段階で都心部の関係自治体と行動をとっていきたい。今、なかなか動くことは難しいが、大きな方向としては十分に理解をしている。

●千代田区における水辺の魅力向上

【問題の背景】 ここ東京では、1590年徳川家康の入府以来、水路の整備と干潟や浅瀬の埋め立てによる居住地造成などの都市機能整備から始まり、1850年頃には網の目のように運河が巡る持続可能なコンパクトシティである水の都「江戸」が完成していました。

中央環状線が完成し圏央道の整備が進む中、首都高速の高架を撤去し、日本橋川の整備を行えば、貴重な水辺資源を生かした素晴らしいまちが出来るのではと思います。親水性の高い水辺の修復を図り、遊歩道や緑地、自転車専用道などを整備することにより、



水と緑の回廊を千代田区に創ることが出来ます。日本橋川にかかる首都高速の高架撤去により、開放される水面面積は約16％となり、日比谷公園と同じくらいの空間を創出することができるのです。

首都高速の高架に覆われている日本橋川にかかる橋は千代田区内だけでも17にのぼります。常盤橋や空襲の跡が残る鎌倉橋、復興橋である錦橋など、素晴らしい橋が幾つもあり観光資源も少なくありません。東日本大震災で多くの帰宅難民が出た東京では、水上交通が注目されています。都内には61カ所の防災船着き場があり、千代田区も3カ所を管理しています。是非、日常的な活用も検討して頂きたいと思います。東京湾からの海風を都市の内部に導く風の道への貢献も期待でき、千代田区をはじめ都心部のヒートアイランド現象を抑える効果も期待できそうです。

【質問】

水辺の魅力を向上させることは都市環境の改善だけではなく、生物多様性や観光推進による経済の活性化、防災にも貢献できそうです。具体的な事例も含めた見解は？



【区（執行機関）の答弁】

護岸緑化や水質改善など、水辺の魅力向上につながる環境整備をこれまでも進めている。神田川や日本橋川には、区役所、和泉橋、三崎町の3カ所に区の防災船着き場が整備されており、防災利用以外にも、河川環境啓発や町会、団体等による地域活性化事業などの非営利活動等に利用されている。今後、隅田川を中心に、神田川、日本橋川も含めた船や船着き場を使った水辺の関心を喚起する取り組みも想定されている。更に大手町で進行している連鎖型再開発の中では、日本橋川沿いに緑豊かな歩行者専用道路を整備するなど、限られた都市空間の中で水辺を意識したまちづくりも進んでいる。東京都や関係区で設置している「日本橋川に関する連絡会」を活用し、河川利用団体への支援検討や河川環境整備に関する情報交換などを積極的に行いたい。

2.子どもの教育・保育プログラムについて ●就業前の子ども育成の基本理念

【問題の背景】 幼稚園や保育園などの就学前教育は「教育基本法第11条」において、生涯にわたる人格形成及び義務教育の基礎を培う重要なものであると明確に位置づけられています。

就学前教育の教育的・経済的効果に関しては、多くの国で研究・検証が行われており、アメリカにおけるペリー・プレスクールなどの研究結果として、就学前教育が教育的効果だけでなく、犯罪の減少や所得の増大など社会的・経済的効果も有すると報告されています。ペリー・プレスクールPJとは、年齢が3〜4歳、アフリカ系アメリカ人で貧困層の子どもたち123名に対し、少ないクラス編成で毎日2時間半の授業や毎週家庭訪問を行うプログラムを提供し、同様な子どもたちと比較し成果を測定したものです。この卒業生は、学校中退や留年が少なく、多くが大学に入り、雇用されました。犯罪を起こしたり生活保護を受ける人数も少なく、結果としてプログラムの初期コストは多額ですが、約7倍の投資対効果を生んだと推計されています。

日本では、小・中学校、さらには高校までも授業料が無償化されているにも拘らず、最も教育に重要な時期である就学前の費用が有償となっている矛盾は国家としての大きな問題だと考えます。

千代田コラム

東京国立近代美術館

1952年開設された日本で最初の国立美術館です。そして1969年、現在の北の丸公園にブリジストン創業者の石橋正二氏のご厚意により、建築家谷口吉郎の設計による本館が再開館しました。谷口吉郎は、帝国劇場や東京国立博物館東洋館の設計でも有名です。昨年開館60周年を迎えて、所蔵品ギャラリーがリニューアルされ、素敵な空間に生まれ変わっています。美術館の最上階に位置する休憩スペース「眺めのよい部屋」からは、皇居や丸の内のビル群を一望することができます。



本館から徒歩5分のところにある工芸館は、1910年に近衛師団司令部庁舎として陸軍技師田村鎮の設計により建築されました。赤煉瓦造・ゴシック様式の建物は、貴重な明治時代の洋風建築として重要文化財に指定されています。1945年8月14日、終戦を阻止しようとした将校らが、森近衛第一師団長を殺害し、偽の命令を出して近衛師団を出動させた「玉音盤クーデター未遂事件」が起こったことで有名です。

近くに、このような素晴らしい美術館があるのも、都心の千代田区ならではのですね。私もSTEM（現LIXIL）勤務時代は工業デザインに携わっていたので、もっとデザインに触れ、感性を豊かにしたいと思いました。

【質問】

就学前教育が教育的効果だけでなく、社会的・経済的効果を有すると報告されています。我が国における就学前教育の重要性をどのように認識し、基本理念にどう反映されているのか？

【区（執行機関）の答弁】

幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。知的、感情的な面でも、また人間関係の面でも、日々急速に成長する時期でもある。文部科学省でも、幼児教育の重要性が科学的にも裏づけられているとし、我が国においても幼児期の教育とその後の学力、生活実態との関連についての調査・研究を行い、科学的な検証が更に必要との見解を示している。

こうした幼児教育の重要性と基本理念への反映については、連続性を意識した計画的かつ意図的な指導上の工夫を行う必要がある。さらには、家庭教育との連携が特に求められる。保護者と園等における保育者との互いに信頼関係の中で情報を共有し、子どもの成長を支援していくことも重要となる。これらを基本理念とし、幼児教育の充実に取り組むことで、幼児教育の重要性の具現化と子ども一人ひとりの育ちの保障につなげたい。

●千代田区独自の教育・保育プログラム

【問題の背景】 千代田区における就学前の子どものための教育・保育プログラムは、保育所保育指針、幼稚園教育要領を受け、東京都教育委員会が作成した就学前教育プログラムを踏まえ作成されています。一方、子どもたちを取り巻く環境は、親の就業環境によって保育・教育が平等に受けられない現実や待機児童問題など、課題は山積しています。就学前教育や保育の質の向上を図り、幼児の良好な育成環境を整えることは基礎自治体としての責務であると考えます。

東京都の就学前教育プログラムは、25%の割合で発生している小1問題と言われる児童の学校生活への不適応状況を問題とし、重点対策として小学校との連続性を踏まえた就学前教育の充実を位置づけ、具体的なプログラムの開発が行われています。一方、小1問題は、ここ千代田区では大きな問題とは聞いていません。もし解決すべき問題が東京都と違うのであれば、千代田区としては、最も重要な問題を解決するためのプログラムを作成すべきと考えます。また、家庭での教育力向上を目指すのであれば、広く保護者にもご理解いただくことが大切です。

【質問】



千代田区で解決すべき問題を明確とし、地域特性を生かした独自性の高い教育・保育プログラムが求められています。また、小1問題対策や保護者向けの普及啓発活動も必要では？

【区（執行機関）の答弁】

区内には区立保育園が4園、区立こども園が2園、区立幼稚園が6園、私立保育園が1園、認証保育所が10園、認可外保育施設3園の計26園、1600名の子どもが多様な施設に通園している。就学前の子どものための教育・保育プログラムは、こうした子どもの施設の現状を踏まえて、各園の特色は尊重しつつ、設置主体別や認可形態の違いにとらわれず、子どもたちが小学校に進学する前、最低限身につけてもらいたい教育・保育の内容を明確とし、健全育成に資する事を目的としている。また、いわゆる小1問題については、本区では現在問題とはなってはいない。

次に、就学前の子どものための教育・保育プログラムは、幼稚園教諭や保育士等を対象に編集しており、直接的に家庭の教育力向上を意図していないが、保護者にとって有用と思われる事例も数多く掲載されている。従って、ご指摘の趣旨を踏まえて、保護者向けの概要版を作成するなど普及啓発にも努めていく。

働く街から、いきる街へ。

内田直之（うちだ なおゆき）

1964年、熊本市生まれB型。
1984年国立有明高専建築学科を卒業、トステム株式会社入社。総合企画室主任、海外赴任を経て商品企画室長となり、窓やシャッターなど主力商品の戦略立案・開発プロジェクトに携わる。
2011年より千代田区議会議員。2012年より明治大学公共政策大学院在籍。 一級建築士。

●委員会
環境文教委員会
駅及び駅周辺環境整備特別委員会

●所属団体
(社) 東京建築士会
NPO 神田学会
NPO 電線のない街づくり支援ネットワーク

●内田直之事務所
〒101-0041 千代田区神田須田町1-30 スナミビル3F
Tel/Fax 03-3252-8832
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp